

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 土堂 小学校

国語

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	70.0	68.8	82.7	12.7
	基礎	71.8	70.5	83.3	11.5
	活用	62.1	61.2	79.7	17.6
領域	話すこと・聞くこと	78.3	80.1	88.5	10.2
	書くこと	54.0	47.8	71.2	17.2
	読むこと	65.2	66.9	81.7	16.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.4	74.2	85.7	9.3
観点	国語への関心・意欲・態度	63.8	63.0	80.6	16.8
	話す・聞く能力	78.3	80.1	88.5	10.2
	書く能力	53.7	49.4	71.9	18.2
	読む能力	65.2	66.9	81.7	16.5
	言語についての知識・理解・技能	75.4	72.8	84.9	9.5

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+12	+12	+18

※県平均との差を記入する。

R 重点課題(観点)

1. 読む能力

①目的や必要に応じて、文章の内容を読み取ることができる。

2. 言語についての知識・理解・技能

①第3学年配当漢字を読むことができる。

②国語辞典の使い方を理解している。

P D 重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

1-① 説明文では、題名にかかわる言葉や繰り返し出てくる言葉(キーワード)に注目して、印を付けながら読む。
問いと答えにサイドラインを引かせる。
内容の順序が分かるように、順序を表す言葉や接続語に丸を付けるなどして意識して読む。
物語文では、誰がいつ何を、どんな事を思っているのか、場面の状況をしっかりとらえさせながら読む。

2-① 漢字の宿題で振り仮名をきちんと書かせ、間違いは直しをさせる。
モジュールで漢字の読み方を練習する。
普段から、正しい言葉をはっきりと話すように指導する。

2-② 9月の「辞書引き」強化月間に加え、10月以降も辞書引き週間を計画的に設けて辞書の使い方を定着させる。
モジュール等で、辞書で調べる時の言葉の変換について学習を深める。

C 検証スケジュール

・思考の形成、他者視点の取得、自己モニターを関連付けた授業づくりを行うことができたか、検証する。(ノート交流等を含めた校内研修の実施をする。)

・単元末テストで観点別の正答率の推移を統計に表し、定着状況を確認する。

・同一問題(類似問題)で2学期末に定着状況を確認する。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 土堂 小学校

社会

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	69.8	73.6	85.6	15.8
	基礎	73.5	77.0	89.6	16.1
	活用	55.7	60.8	70.3	14.6
領域	安全を守る活動	75.4	77.3	85.1	9.7
	生活環境を守る活動	79.1	83.9	94.9	15.8
	先人の働き	58.3	62.5	70.3	12.0
	県の様子	54.8	60.0	80.9	26.1
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	66.8	70.9	83.1	16.3
	社会的な思考・判断・表現	68.2	71.7	82.7	14.5
	資料活用の技能	68.6	73.7	85.6	17.0
	社会的事象についての知識・理解	71.7	75.0	86.9	15.2

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 社会的な思考・判断・表現
 ①資料(地図)をもとに考察し、その理由を説明する。
 ②複数の資料をもとに判断する。
 ③地図記号や縮尺の知識をもとに、道順や距離を判断する。

2. 観察・資料 活用の技能
 ①資料(絵, 説明)をもとに干拓の方法が分かる。

1-① 地図を読み取らせたり、読み取ったことをもとに自分の考えを説明させたりする。
 1-② 複数の資料を提示し、読み取ったことを関連付けて考察させる。
 1-③ モジュール学習において地図記号の問題に取り組ませるとともに、社会科だけでなく他教科等においても地図を活用させる。
 2-① 資料集を活用し、調べさせる。

・思考の形成, 他者視点の取得, 自己モニターを関連付けた授業づくりを行うことができたか, 検証する。(ノート交流等を含めた校内研修の実施をする。)
 ・単元末テストで観点別の正答率の推移を統計に表し、定着状況を確認する。
 ・同一問題(類似問題)で2学期末に定着状況を確認する。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 土堂 小学校

算 数

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	75.0	74.2	82.7	7.7
	基礎	80.9	80.1	87.6	6.7
	活用	52.9	51.9	64.4	11.5
領域	数と計算	80.3	79.5	87.3	7.0
	量と測定	70.7	69.9	74.9	4.2
	図形	77.1	78.5	88.9	11.8
観点	数量関係	59.5	57.2	73.8	14.3
	算数への関心・意欲・態度	61.1	58.8	66.7	5.6
	数学的な考え方	57.6	57.4	69.0	11.4
	数量や図形についての技能	77.0	75.5	82.9	5.9
	数量や図形などについての知識・理解	78.9	78.4	87.1	8.2

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+10	+10	+12

※県平均との差を記入する。

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

1. 数学的な考え方

①ある時刻にやっている出し物があるか判断することができる。

②ある時刻から一定時間が経過した時刻を求めて、決まった時刻までに3つの出し物をまわれるかを判断することができる。

③□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶことができる。

2. 数量や図形についての技能

①数直線上に示された分数を読み取ることができる。

1-① たくさんの情報の中から必要な情報を整理して取捨選択して考えさせる。

1-② 読み取ったことや考えたことを図や式、言葉で表現させる習慣を付ける。

1-③ 式を立てる時に大切な言葉や数(キーワード)に丸を付けたり、問いにアンダーラインを付けたりして考えるようにさせる。

2-① 分数の意味を理解させる。
もとになる数1をいくつに分けているか理解させる。
図や数直線などをノートにかかせて分数の意味を理解させる。
数直線における分数の表し方をモジュール等で習熟する。

・思考の形成, 他者視点の取得, 自己モニターを関連付けた授業づくりを行うことができたか, 検証する。(ノート交流等を含めた校内研修の実施をする。)

・単元末テストで観点別の正答率の推移を統計に表し, 定着状況を確認する。

・同一問題(類似問題)で2学期末に定着状況を確認する。

平成26年度 学力定着実態調査の結果及び改善計画

尾道市立 土堂 小学校

理科

R

重点課題(観点)

P

D

重点課題に対応した日常的な指導内容及び方法

C

検証スケジュール

【今年度の結果】

分類	区分	全国	尾道市	自校	全国との差
基礎・活用	教科全体	68.1	68.9	77.9	9.8
	基礎	70.3	70.2	78.8	8.5
	活用	61.6	64.8	75	13.4
領域	物質・エネルギー	70.1	71.4	82.4	12.3
	生命・地球	66.5	66.9	74.4	7.9
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.8	68.5	76.5	9.7
	科学的な思考・表現	62.4	64.9	76.0	13.6
	観察・実験の技能	56.0	51.6	53.8	-2.2
	自然事象についての知識・理解	73.9	74.6	84.0	10.1

【来年度の「基礎・基本」定着状況調査における目標値】

	教科全体	タイプⅠ	タイプⅡ
平成27年度	+10	+10	+14

※県平均との差を記入する。

1. 科学的な思考・表現

①日なたの地面の温度が、日かげの地面の温度より高くなる理由を説明できる。

2. 自然事象についての知識・理解

①虫めがねの正しい使い方がわかる。

②モンシロチョウの幼虫のえさの葉の取り替え方がわかる。

1-① 実験の予想と結果だけでなく、視点をもって考察を書かせる。要因や根拠を考察させる。「何が何によってどうなったか」など、必要な言葉を使って説明をする力をつける。

2-① 用具の使い方を教え、実際に使う体験をさせる。ノートに実験用具等の使い方をまとめて書かせる。

2-② 生き物や植物の観察をしたり、飼育をしたりして、世話の仕方を実際に体験させる。複数の解答の中から間違いを指摘したり、正当な理由を説明したりさせる。

・思考の形成、他者視点の取得、自己モニターを関連付けた授業づくりを行うことができたか、検証する。(ノート交流等を含めた校内研修の実施をする。)

・同様の問題を作成し、3学期中に定着状況を見取る。

・学期ごとに小テストを実施する。